

## 1. 概要

日時	2013年8月6日(火)
場所	島根県立隠岐高校第2講義室
対象	同校第3学年
参加	本学医学部医学科4年 加納希生 本学医学部看護科2年 遠藤圭介、須山由季、妹尾将太、 與田千菜美

## 2. 目的

- ・同高校を直接訪問し、島根大学医学部ならびに医療人を目指す学生としての出雲キャンパスにおける学生生活の魅力を生徒に紹介する。
- ・本学部学生が『顔の見える関係』を高校生と構築することで、島根大学への親近感を上げると共に理解を深める。

## 3. 内容

- ・添付資料を用いて島根大学の魅力及び医療人を目指す事の意義(一例)を紹介した。  
今回は看護科志望の高校生が対象であることから、看護科の演習内容についても写真を用いて紹介した。
- ・同高校生徒2名につき、本学看護科学生1名の小グループを作り、グループ内で学生生活の紹介を行うとともに、質疑応答を交えながら交流した。
- ・各グループ間で学生を交代させることで、全員と交流できるよう配慮した。

## 4. 反省点

- ・高校3年生の時点で志望校を変更する事は、困難が伴う事から、今後は第1-2学年への訴求を強くしていく必要がある。
- ・離島に於いては、医療従事者、特に医師を目指す場合は、中学校の時点から志望を持ってもらう必要があるとのコメントあり、今後は中学生へのアプローチも必要になってくると思料。(離島では、医療そのものに接する機会に恵まれず短期間(この場合高校3年間)でモチベーションを醸成することは困難とのこと)
- ・但し、高校低学年であれば、学力的には十分に挽回の余地がある事、並びに医療従事者を目指す上で最も不安な点が学力であるとの生徒側反応を鑑みるに、勉強の方法論で不安のある生徒に関しては高校生でも積極的に関与するべきと思料。
- ・配布資料に関して、十分な紹介が出来ていなかった。今後は担当を分け、配布予定の資料(学部案内、学科案内等)に関して説明する時間も設けたい。  
また、看護科の本活動に対する期待を十分に認識する為、一度理解を共有する必要があると感じた。
- ・正確な反応を知る為にアンケート用紙等の準備が必要であった。

## 5. 所感

- ・同高校生徒からの反応は口頭では良好であった。3年生であり、進路変更に関しては硬直性が強くみられたが、同校後輩への口伝等間接的な効果も期待できると思料。

- ・本学学生からは、初心に回帰できたとの反応があり、自らが高校生の時に抱いた志を今一度確認することのできる良い機会になることが分かった。

## 6. 配布資料

- ・医学部/看護科案内（看護科御依頼分）
- ・島根大学医学部の紹介スライド

以上